

# 岩手大学

岩手大学広報誌  
IWATE UNIVERSITY

Vol.43 AUGUST  
2019.8

## INDEX

- P1…学内カンパニー紹介
- P2…研究紹介
- P3…キャンパスライフ
- P4…センパイ紹介!! ほか
- つくる・つなぐ・ひろがる! 岩大生のちから ものづくりエンジニアファクトリー(EF)学内カンパニー
- 教員養成と現場の教育を繋げる研究・教育実践の試み 教育学部英語教育科 准教授 ホール ジェームズ
- サークル紹介 ● GANDAI UPDATES ほか
- センパイ紹介!! ● 国立天文台水沢 VLBI 観測所 特定技術職員 高橋 賢さん
- TOPICS ● 総合教育研究棟(水産系)の竣工記念式典を実施 ほか Information ● 行事予定 70周年記念事業 ほか

# つくる・つなぐ・ひろがる! 岩大生のちから ものづくりエンジニアファクトリー(EF)学内カンパニー

研究室でもサークルでもない、ものづくり人材の育成を目的に2009年に創設されたのが「学内カンパニー」です。  
 学生が社長や社員を務め、大学からの支援を受け、日々ものづくりに励んでいます。  
 地域や社会貢献につながるような、実践的な活動に多くの社員が日夜取り組んでいます。  
 今回は「岩手大学研磨工業」と「Anonas Lighting」をご紹介します。

## 学内カンパニー団体紹介

### 岩手大学研磨工業

岩手大学研磨工業は岩手県のスピードスケートを技術面からサポートするというスローガンを掲げ、スケート靴の刃を研ぐ砥石を製造・販売している。実際に現役で活躍する選手が使用し、好評となっている。



#### Q どのような活動をしていますか?

A スピードスケートの刃を研ぐ道具を作るといのが、このカンパニーの1番の目的です。このカンパニーで製造している製品は、既存のものとは性能とコストが大きく異なっています。性能に関しては、世界で初めてスケートの刃に特有の丸みに対応した研ぎ石を作り、子供でも簡単に研げるような製品を開発しました。コストに関しては、従来のものの約10分の1以下の価格になっており、学生や子供など多くの方に使用してもらえものを作っています。



#### Q 始めたきっかけはなんですか?

A この活動は、5年前に偶然プロの選手の方からの「こんなものがあつたらいいな」という意見を耳にし、岩手大学の進んだ研磨技術を用いて作れるのではないかとこの考えから始まりました。  
 僕自身は現役のスケート選手ということもあり、今までの研ぎ石の課題も知っていたので、面白い活動だと思い入社しました。

#### Q 後輩となるみなさんにメッセージをお願いします!

A 大学4年間を学ぶだけではなく、自分たちの手で作るなどの「新しいこと」に挑戦してみることは、将来に必ず役に立つと思います!また、教育学部の学生でもこのような工学系の活動に携わっているので、理系や文系などという括りにとらわれず、自分がやってみたいことに挑戦してみてください!



私たちが聞きました!  
 学内カンパニー i-Connect メンバー  
 農学部3年 米田 莉子(左)  
 農学部3年 川戸 菜摘(右)

#### 取材に協力してくれた方

岩手大学研磨工業  
 社長 小野寺 峻一  
 (教育学研究科  
 教職実践専攻修士1年)  
 (岩手県立盛岡第三高等学校出身)



## 学内カンパニー団体紹介

### Anonas Lighting

Anonas Lighting では、広範囲災害警報通知システムを開発した。災害の多い日本で、多くの命を守るため、製品化を目指し活動している。



Anonas Lighting ホームページ  
<https://iwate-u.wixsite.com/anonaslighting>

#### Q どのような活動をしていますか?



A 盛岡市で導入されている防災ラジオを起点に動作する、広範囲災害警報通知システムを開発しました。緊急速報が発令された際、親機は防災ラジオの自動起動に連動し、家電を制御する子機に無線信号を送ります。そして、無線信号を受信した子機が、日常生活で使っている照明器具を点滅させる、テレビを起動させるなどして緊急事態をいち早く周知させ、迅速な初期行動を促すことができます。このシステムは親機や子機の接続が非常に簡単であり、さらに親機から子機までの無線信号が届く距離は約1kmもあります。私達は、現在7人で活動をしており、現在盛岡市や民間企業との、産学官連携で製品化を進めています。

#### Q 始めたきっかけはなんですか?

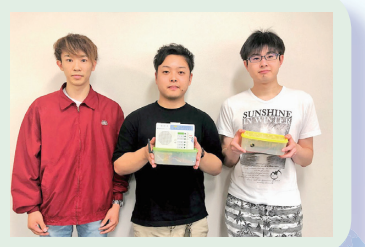
A 高校の時からものづくりに興味があったこと、震災による犠牲者を減らしていきたいと考えたためです。理工学部は、座学で学ぶことがほとんどですが、学内カンパニーでは1・2年生でも様々な機器に触れられることも魅力的で、ここで得た経験は将来役に立つと思ったためです。

#### Q 後輩となるみなさんにメッセージをお願いします!

A 座学が主な学部1~3年生でも、学内カンパニーではものづくりに関わることができるのが魅力的です。また、学内カンパニーでは実際の会社のように役職があるので、将来、組織に所属して働くための良い経験になります。「興味がある」、「やってみたい」と思いましたら、是非 Anonas Lighting の活動場所に遊びに来てください。

#### 取材に協力してくれた方

- ・ Anonas Lighting 社長 高橋 俊也 (総合科学研究科 理工学専攻電気電子通信コース 修士1年) (青森県立弘前南高等学校出身)
- ・ Anonas Lighting 設計・開発 明石 大昌 (理工学部 システム創成工学科 電気電子通信コース 4年) (秋田県立大館鳳鳴高等学校出身)
- ・ Anonas Lighting デザイン 藤倉 匠 (理工学部 システム創成工学科 電気電子通信コース 1年) (山形県立米沢興譲館高等学校出身)



# 教員養成と現場の教育を繋げる研究・教育実践の試み



教育学部 英語教育科  
准教授 ホール ジェームズ

## ② 教員の成長の研究

私は三つの領域の研究に取り組んでいます。外国語教師成長論、外国語教師教育、外国語教育のカリキュラム開発。これらの研究への関心は、自分の教育の試行錯誤から生まれました。自分の経歴を述べてから、研究紹介をしたいと思います。

## ① 英語教育研究の始まり

私はアメリカ合衆国の出身で、元々、JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）の英語教育助手として日本に来ました。私は、1997年、北海道の地方の中学校に派遣されて、2年間英語を教えています。当時の私は経験が少なく、生徒の関心を引き、また生徒の学習を促進するような授業を実施するのに苦労しました。私には、次のような思いがあります。ある日、私は中学校の3年生の授業で、教科書のページを朗読していました。生徒が私の後、教科書の文章をリピートしていました。教科書の内容があまり面白くないためか、生徒が小さい声でつまらなそうに私に続いて音読をしていました。私は生徒の関心・興味を少しでも引き出そうと思ひ、急に教卓に飛び上がって、音読を続けました。しかし、生徒はあまりにもびっくりにして、沈黙が流れてしまいました。私は、このような経験を経て、何とか充実した外国語教育を実現したいと思うようになり、私の研究の旅が始まりました。

「外国語教師成長論」は、外国語教師の成長の過程やそういった成長を促す・妨げる要因を探索する研究です。私は、新任の中学校英語教員を研究の対象にしています。机の上には飛び上がるまではしてはいないと思いますが、私の当時のような気持ちを持っている新任の中学校英語教師は少なくないと思います。例えば、多くの新任教師が「コミュニケーション」を授業に取り入れたいと思っても、コミュニケーション活動が上手く行きません。私は、新任教師がどのようにして「コミュニケーション・ランゲージ・テッチング」(以下、CLT)を行っているかということに強い関心があります。新任教員の成長を理解するために、実際の授業を観察し、その後、授業者と共に授業を振り返ります。1年半に渡り、定期的に同じ新任教師の授業を観察する研究を行ったこともあります。授業とインタビューのデータから、CLTを実施するにあたって、これらの教師が直面する課題を描く「エピソード」を書き、このエピソードを分析します。教師であっても、どの学校で教えても、CLTを実施するときには何らかの問題に直面します。例として、教科書とコミュニケーション活動の不一致、学級マネジメント等が挙げられます。成功する教師は、これらの問題を深く理解し、自分なりの解決策を見つけ出し、独自の根拠のある教育論を形成します。つまり、「効果的」な外国語教育の在り方は学校と学習者の特徴、教師自身の性格と特技によって異なります。能力のある教師は、自分の専門性を活用し、この専門性を築きながら、現場にあった教育の仕方を開発します。

## ③ 外国語教師教育の試みと研究

私の二つ目の研究領域は外国語教師教育です。この研究では、私は「考える教師」を育成する教員養成のプログラムを開発しています。

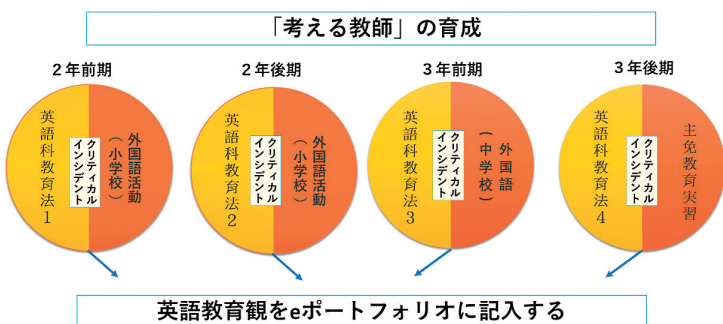


図1 英語科教育法の流れ

す。前述した新任教員の研究に基づいて、このプログラムでは「考える教師」を「問題解決に取り組める」教師として捉え、CLTを実施するための「問題解決」を「英語科教育法」という授業に取り入れていきます。「英語科教育法」とは英語の教員免許を取るための必修科目です。図1は、2年の前期から3年の後期まである教育法1から4までの流れを示したものです。各科目は、講義と現場の実践からなっています。学生は、大学で教育方法論について勉強し、これらの理論についての知識を深めるために、現場で、CLTを取り入れた英語の授業を実践します。授業の計画を作成したり実践したりする時、必ず、学生は解決しなければならぬ課題に出会います。授業の実践の後、学生が自分にとって重要な意味を持つ出来事（クリティカル・インシデント）を説明し、これを通して、自分の「英語教育観」がどのように変わってきたかについてレポートを書きます。「英語教育観」とは学生が考えている効果的な英語の教え方とその根拠を表す用語です。

学生は、各英語科教育法の中で、起こったクリティカル・インシデント、そして自分の中で形成している「英語教育観」を、各自の

eポートフォリオに載せます。私はループリックを使って、学生の「英語教育観」が2年間どのように変わったかを分析します。

今後、私は英語科教育法のデータも含め、学生の時代と英語教師として働き始めてからの数年間のデータを分析していくつもりです。そうすることにより、大学の教員養成課程での学びと現場での教育実践経験がどのように教師の成長に影響しているかを研究したいと思えます。

## ④ 外国語カリキュラム開発

私の三つ目の研究分野は外国語教育のカリキュラム開発です。私は毎年、附属小学校や附属中学校と共同研究を行っており、生徒のコミュニケーション力が伸びるように授業の工夫をしています。また、タイ王国の中学校に学生と訪問し、タイの英語教育の水準を満たす授業を実施しています。さらに、授業を観察するための「授業研究アプリ」をタイの学校と共同で開発しています。

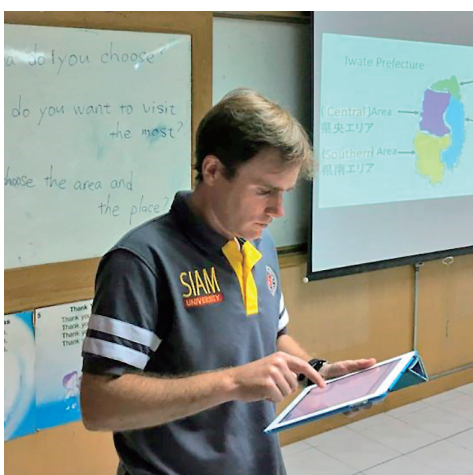


写真1 タイ王国の中等学校で授業研究アプリを使っている様子

英語を教え始めてから20年以上経ちましたが、45歳になる私は、今でも、教育者として、研究者としてまだ成長しています。私の教育と研究のミッションは、他の教師の成長を促しながら、外国語教師教育、外国語教育に貢献することです。私は岩手大学教育学部でこのミッションに取り組むことができ、光榮に思っています。

サークル紹介

アカペラサークルVOO-VOO

サークル紹介

山岳部

「アカペラ」と聞くと「ハモネブ」を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか？ボーカルからハーモニー、リズムまで、全てを人の声だけで歌い上げるアカペラ。そんなアカペラに取り組みアカペラサークルVOO-VOOを紹介します！



取材にご協力いただいた方  
代表 教育学部 宇部 瑞穂さん  
(岩手県立久慈高等学校出身)

VOO-VOOとはどんなサークル？

112名で活動しています。大学から始める人が多いです。年に2回行われる定期演奏会や、全国で開かれる大会などに向けて練習しています。昨年はサークル内のグループの一つが盛岡の大会で優勝して、香港で行われた国際大会に出場しました。アカペラをしながらも、夏には合宿やキャンプ、スポーツ大会など色々な活動をしています。

普段の活動の様子は？

全体練習が毎週火曜日にあります。サークルの中には約40組のグループがあり、そのグループで主に活動しています。グループの掛け持ちをしている人もいて、活動の頻度は人やグループによって違います。

入部のきっかけは？

高校生の時に「ハモネブ」を見てアカペラをやりたいと思ったのがきっかけで、大学を選ぶときからその大学にアカペラサークルがあるか探していました。部活で合唱をやっていたので、歌うことは好きですが、合唱とは違うことをしたいと思ったのもきっかけの一つです。

VOO-VOOの魅力教えてください！  
100人以上いるので、個性が強い人など色々な人がいますが、それでもみんなすごく仲が良いんですよ。卒業した先輩も応援に来てくれて、家族みたいな温かいサークルです。

アカペラの魅力を教えてください！

一人でやるものではないので、最初はうまくできなくても、練習していくうちに確実に上手になれるところが楽しいです。また一人一人パートが違うので、それぞれに責任があつて、誰か一人でも欠けたら成立しないところも魅力だと思います。

今後の目標は？

まだあまり全国に出て行くようなサークルではないので、少しずつでも全国で認められるような、そして今よりもっと楽しくて、温かいサークルになれたらなと思います。

取材を通してメンバー間の仲の良さや温かさが伝わってきました。年度の途中から入部する人も多いと思うので、アカペラに興味がある人、まだ入部を迷っている人はぜひ行ってみたいかがたでしょうか？



第11回定期演奏会の集合写真

私たちが聞きました！  
■人文社会科学部3年 大崎 樹哉(左)  
■人文社会科学部3年 中村 太一(右)



皆さんはボルダリングという競技をご存知でしょうか？山岳部では主にボルダリングに励んでいるようです。今回は山岳部の方に普段の活動の様子を伺ってきました！



取材にご協力いただいた方  
部長 教育学部3年 今野 直人さん  
(福島県立白河高等学校出身)

山岳部とはどんな部活？

現在、88人で活動していて、週3〜4回、県営運動公園でボルダリングの練習をしています！山岳部といながら実はこれまで山に登ったことがなくて…(笑)

普段の活動の様子は？

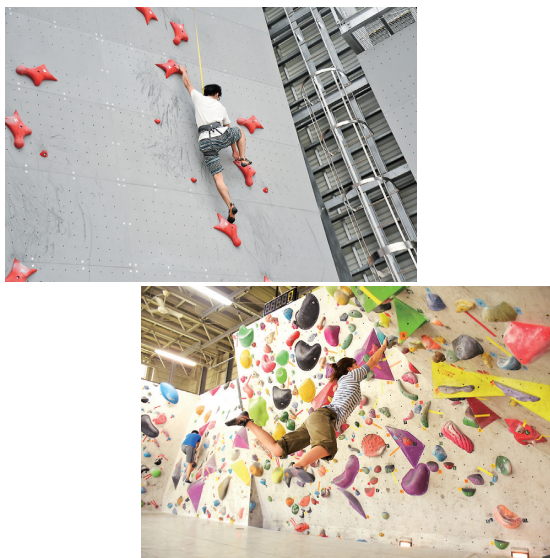
公式の大会に出場する、というわけではないですが、部活内で大会を開催して、登るスピードや高さを競ったりしています。他にも遠征に行ったり、ボウリングや、夏にはバーベキュー、海水浴を楽しんだりもしています！

入部のきっかけは？

高校の時に部活動でクライミングをやっていた、山岳部の見学に行ったときに、フレンドリーな方が多くて、雰囲気の良いことに惹かれて入部しました。

山岳部の魅力を教えてください！

山岳部は部活動というよりは、サークル色が強く、身体を動かしたいときに気軽に来られるところが魅力かなと思っています。部員の中には初心者が多かったり、女性部員も30人近くいたりして…色々



な人がいるから、自分のペースでボルダリングを楽しめるのは山岳部の良いところですね！

今後の目標は？

部員も増えてきたので、今年は公式の大会に挑戦するなど、新たな挑戦ができればと思っています！

GANDAI UPDATES

岩手大学公式 Facebook に掲載した広報室学生スタッフの記事より、反響が大きかったものをご紹介します！

食堂の冷やしラーメン

こんにちは！春の暖かさを感じさせぬまま夏に突入し、暑い日が続いていますね！盛岡には夏と冬しかないのでしょうか…。人文社会科学部3年の大崎です。

沿岸出身の私は、盛岡にきて3度目の夏ですが未だに耐えられません。海が常に恋しいです。そんな暑い日は食欲がなくなりますよね。アイスでいいや、なんて人もいるのではないのでしょうか。ですが、そんな暑い夏だからこそしっかり食べて身体に必要なエネルギーを摂取したいですね！

今回は、夏でも食欲を増進させる食堂メニューを紹介します！それが「冷やしラーメン」です！この冷やしラーメン、麺もスープもまさに冷たいラーメンなんです。盛岡冷麺ともまた違うような？麺はもちろん美味しいのですが、スープがまた凄いです。塩気が少なくとても飲みやすいんです！トッピングもメンマやもやし、ねぎ、チャーシューという豊富なラインナップで食感にアクセントがあって食べ飽きることもありません。

暑い夏、しっかり食べたいけど、中々食欲が湧かないそのあなた！この冷やしラーメン、おすすめです。気になるお値段は中サイズ：453円、大サイズ：518円です。しっかり食べて、盛岡の暑い夏を乗り切りましょう！

以上、冷やしラーメンの紹介でした。



i-Connect 通信欄

学内カンパニー『i-Connect』のメンバーが、いま伝えたいことを発信します。

学内カンパニー i-Connect 設立！

はじめまして！人文社会科学部3年の大崎です。これまで、広報室学生スタッフによる広報第9事務所として皆さんに情報をお届けして参りました。今年度から広報室学生スタッフを中心に、広報学内カンパニー・i-Connectを設立し、今回からi-Connectのメンバーが皆さんにおトクな情報を発信していきますので、よろしくお願いいたします！

今回はそのi-Connectについて紹介します！これまで、部活やサークル・岩手大学の日常についてなど、学内の紹介を行ってきました。私たちi-Connectは、この『Hi!こちら岩手大学』の刊行の他に、活動の範囲を学外まで広げ、岩手県内の企業や、県内市町村が主催するイベントを取材・調査して、FacebookなどのSNS、YouTube等を使って情報発信をしていきたいと考えています。岩手大学は強い発信力を持っています。私たちi-Connectが、学生と企業、学生と地域、また企業と地域をコネクする橋渡しの存在となるよう尽力して参ります！

現在、i-Connectの学生は、人文社会科学部の学生6人、農学部の学生が2人の計8人で活動しています。i-Connectは随時社員募集を行っています。現社員8人全員が3年生以上と、社内の高齢化？が進んでいます。1、2年生の若い力を求めています！もちろん、3年生以上の方も大歓迎です！取材や記事作成など、広報活動に興味がある方はぜひぜひご連絡ください！また、学内カンパニー間でのコラボのお誘いや宣伝の依頼も気軽にご相談ください！お待ちしております。

連絡先はこちら mail:kkoho@iwate-u.ac.jp

コーナー担当 人文社会科学部3年 大崎 樹哉

## TOPICS トピックス

## 総合教育研究棟（水産系）の竣工記念式典を実施

昨年8月から着工していた釜石キャンパス内の総合教育研究棟（水産系）が完成し、2019年7月1日に竣工記念式典を行いました。式典終了後には、無菌実験室や隔離飼育室等の教育研究棟内の見学や、岩手大学三陸水産研究センターにおいて行われている研究内容の紹介を行いました。

当該教育研究棟を人材育成の場としてだけでなく、漁協や企業等との共同研究や調査に活用することで、海洋・水産分野における研究活動の活性化がより促進されることが期待されます。また、水産業の維持に向けて、沿岸地域の養殖技術と大学の人材育成を継続的にマッチングさせる仕組みも整備していく予定です。



総合教育研究棟（水産系）の外観



総合教育研究棟（水産系）の様子

## 「ガンダイニング」今年も放送予定です！

岩手大学を紹介するテレビ番組、「ガンダイニング」を今年も放送いたします。10月から12月にかけて、岩手大学の様々な活動や魅力にスポットを当て、学生生活・研究・地域貢献や東日本大震災からの復興への取組などの情報を、地域の皆様に発信していきます。



レポーターの真田さん（左）と大友さん（右）

放送日：10月1日スタート（全13回）  
毎週火曜日 18:55～18:58 放送  
（再放送 24:55～24:58）

IBC 岩手放送（TBS 系列）

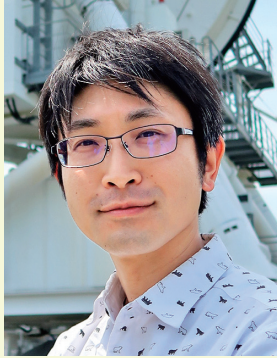
岩手県在住の方以外にもご覧いただけるように、後日公式 YouTube に動画を掲載します。

Introduction to a senior

## センパイ紹介!!

OB-INTERVIEW  
インタビュー

第40回



PROFILE

たかはし けん  
高橋 賢さん岩手県一関市生まれ  
平成21年3月 工学研究科  
電子情報工学専攻（当時）  
修了

【国立天文台水沢VLBI観測所】

## Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

なんといっても大学院時代の研究です。植物（ザゼンソウ）の温度制御システムのモデリングおよび工学的応用がテーマでした。研究活動を通して恩師との出会いや国際学会での研究発表、論文執筆など生涯忘れられない経験を積むことができました。苦労を重ねて書いた論文が学術雑誌に掲載されたときの感動は忘れられません。

## Q2 現在のお仕事に就かれたきっかけはどのようなことですか。

大学卒業後、民間企業で電子部品の製造に携わっていました。しかしながら研究機関で働きたいという思いが強くなり、勤続10年という節目で転職を決意し、偶然にも現在の職場の求人を見つけて今に至ります。

## Q3 仕事のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

最近大きな反響がありましたが、ブラックホールの撮像などの壮大なスケールの研究に携われることにやりがいを感じます。おそらく民間企業ではなかなか味わえないでしょう。私は技術職員であり研究者を支える立場で、電波望遠鏡などの観測装置の維持管理が主な仕事です。縁の下の力持ち的な役割ですが、世界初の研究成果を出すことに貢献できるよう日々精進したいと思っています。

## Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

精神的にも肉体的にもタフになって欲しいですね。仕事は自分の考えや感覚だけではなく他人のことも考えなければなりません。また、良くも悪くも色々な仕事が出てきます。他人からのプレッシャーにはメンタル面、仕事をこなしていくには体力が必要なので、心も体もタフになって欲しいです。

あとは人との出会いを大切に。私は大学時代に尊敬できる先生や先輩との出会いがありました。それは今でもかけがえのないものになっています。在学中に友人や先生でも良いので尊敬できる人との出会いがあれば、一生の宝になると思います。

最近、楽しかったことも、辛かったこともこれまでの経験と感動が自分の血となり肉となっているのだと実感しています。ぜひ、積極的に色々な体験をして下さい。若い力に期待しています！

## Information

## 行事予定

岩手大学創立70周年記念事業  
卒業生・修了生と学長との懇談会（第12回）  
10月19日（土）10:00～12:00  
【お問い合わせ】総務広報課 TEL：019-621-6015



記念講演会（対談形式）  
10月19日（土）14:00～15:30  
【お問い合わせ】総務広報課 TEL：019-621-6006

記念式典  
10月19日（土）15:45～17:00  
【お問い合わせ】総務広報課 TEL：019-621-6006

岩手大学ミュージアム特別企画展  
「Build Back Better - 岩手大学震災復興活動展 2019 -」  
10月16日（水）～11月15日（金）  
【お問い合わせ】学術情報課 TEL：019-621-6082

不来方祭（大学祭）  
10月19日（土）、20日（日）  
【お問い合わせ】学生支援課 TEL：019-621-6056

## 岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式 Facebook、YouTube、学長 Twitter を更新中！  
Facebook には、広報室学生スタッフが取材した記事も掲載しています。  
ぜひ覗いてみてください。



◀岩手大学公式 Facebook :  
<https://www.facebook.com/iwate.u>

岩手大学公式 YouTube チャンネル : ▶  
<https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPkSvGSMYwK1aOA>



◀岩手学長 Twitter :  
[https://twitter.com/iwate\\_u\\_ai2016](https://twitter.com/iwate_u_ai2016)

## 岩手大学創立70周年記念事業募金へのご協力について

岩手大学は、1949年の創立以来、2019年に70周年を迎えます。その節目にあたり、これまでの足跡を振り返るとともに東日本大震災発生後の取り組みをとりまとめ、地域や世界に向けた発信、及び未来への伝達を包括する、「読んで、見て、感じて、活かし伝えていく」岩手大学創立70周年記念事業を実施します。

この記念事業を進めるにあたり、教職員、学生の大学構成員をはじめ、同窓生や学生の保護者、産官民の多くの関係者の皆様より広くご支援を賜りたく、創立70周年記念事業募金を創設し、募金活動を行うことといたしました。この趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますようお願いいたします。

募金事業の詳細、申込・払込方法については、イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。

岩手大学イーハトーヴ基金ホームページ :

<https://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkikin/>



お問い合わせ先  
財務部財務課 財務総括グループ  
019-621-6024 zsomu@iwate-u.ac.jp

Hi!こちら岩手大学  
岩手大学広報誌 Vol.43 AUGUST 2019.8  
IWATE UNIVERSITY

## 編集後記

「Hi こちら岩手大学」Vol.43をお届けします。今回は、2つの学内カンパニーの紹介、ジェームス先生の研究紹介、学生記者による2つのサークル紹介、センパイ紹介では国立天文台の高橋さんの紹介記事を掲載しました。また、新たに釜石キャンパス内に水産系の総合教育研究棟が7月1日に竣工したことを紹介しました。今後、海洋・水産分野の研究活動が促進されることと思います。暑い夏に突入しますが、これからも岩手大学は挑戦続けるのでぜひ応援をお願いいたします。

## Hi!こちら岩手大学 vol.43

岩手大学広報室広報誌専門部会  
2019年8月発行

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

電話 019-621-6015 FAX 019-621-6014

E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp <https://www.iwate-u.ac.jp/>  
本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。

Quality First  
hokushu  
YAMAGUCHI HOKUSHU PRINTING CO., LTD.

Since 1893